

〈ポスターガイダンス〉

司会（吉田）：

それでは、ポスターガイダンスを始めたいと思います。

中川先生のほうから紹介していただきます。

中川弥智子 生命農学研究科准教授：

皆さん、講演はいかがでしたか。

ちょっと時間が押してしまったので、質問の時間が取れずに聞く一方になってしまいましたが、これからありますポスター発表のほうでは皆さんにも参加していただいて、「研究というのはどういうものか」とか「理系というのはどういうところか」という実感をさらに深めていただけたらと思います。

ポスターガイダンスでは、「ポスター発表とは」ということと「ポスター発表の見方、または聞き方のポイント」を簡単に説明したいと思います。

まず、「ポスター発表とは」という内容の説明の前に、ポスター発表をしたことがある方はいらっしゃるでしょうか。あまりいないようですね。ここで言う「ポスター」というのは、研究内容を1枚の大きめの紙にまとめたものです。ポスター発表といった場合には、自分が作ったポスターの前に立って、内容を聞きに来た人たちに対して説明する発表形式のことです。これまで3人の先生方は、前に来られてパワーポイントを使って発表されました。これも発表形式の一つです。

後ほどポスター会場へ行っていただくと前の写真のような光景が広がっているのですが、ポスターは1枚だけ貼り出されているわけではなく、ずらっとたくさんのポスターが貼り出されています。今日は31題のポスターが貼り出されています。

ポスター発表は時間が決められていて、一人ずつ発表するのではなく、同時並行で皆さんが発表しています。それを大勢の人たちが参加しながら聞いているというのがポスター発表の様子です。

では、どのポスターを見に行けばいいのか迷う方もいらっしゃると思いますが、基本的には見たいポスターを自由に見ていただければいいと思います。一つのポスター発表は2分しか見てはいけませんとか、5分見たら次のに移りなさいというルールも全くなく、内容が面白ければ10分でも20分でも粘っていろいろな質問をすることもできますし、「ああ、こういう内容の発表か」ということが分かったら、次のポスターに自由なタイミングで移ることができます。

先ほどの講演に対しては質問をする時間が取れませんでした。ポスター発表のいいところは、自由なタイミ

ングで分からないことがあったときにいつでも質問できるという点です。ですから、名古屋大学の女性の学生や研究者がポスター発表に立っていますので、説明してもらっている間に分からないことがあれば、その説明が終わるまで待っている必要はなく、途中で遮って「今のが分からないんですけど」という質問がいつでもできます。

聞く人も、一人でないといけないということはありません。だれかが説明を聞いていても待つ必要はなく、途中から一緒に複数の人が聞くということも可能な発表形式です。

標準的なポスターとして考えられるのは、まずタイトルがあって、発表している人の名前や所属が上のほうに書いてあります。それから、最初に研究の背景があって、次に、その研究をするにあたってどんな方法でやったかという説明が書いてあり、その結果、どんなことが分かったかということがここにまとめてあります。そして、最後に一番強調したいことがまとめてあります。よく文章を書くときに、「起承転結に沿って書く」というようなことを学校でも言われると思いますが、ポスターも同じです。起・承・転・結という流れが分かるように、いかに分かりやすく1枚の限られた紙面にまとめるかというのがポスターの難しさでもあり、面白い点でもあると思います。

では、ポスター発表ですが、これから実際に見ていただきますけれども、まず見たいポスターを決めます。どのように決めるかという方法については、タイトルで判断するのが1つの方法です。それから、お手元に資料が配布されていると思いますので、それを参考に面白そうな内容の発表や、自分が興味のあるキーワードの入ったポスターを選んでポスターを見に行ってください。

また、興味のある学部があれば、その学部の所属の人がどんな研究をしているかということを知るためにも、その学部のポスターを選ぶのもいいですし、何となく前を通り過ぎて、これにしようと思えることもできます。あまり悩まずに見たいポスターを決めて見てみてください。

2番目は、見たいポスターが決まったら発表を聞きに行きます。何も言わないで近くにいたら、発表者が「説明しましょうか」と言って説明を始める場合もありますが、「簡単に説明してください」とか「これはどういうことですか」とか「詳しく教えてください」と言って説明を始めてもらってもかまいません。その説明を聞きながら自分で分からないことをどんどん質問してください。

ポスターに対する説明が終わって、ひととおり自分でその内容が理解できれば次のポスターへ移るということ

を繰り返してください。限られた時間なので31枚全部見ることはなかなか大変だと思いますが、自分の興味のあるポスターを中心に見て行ってください。

最後に、皆さんにも投票権があります。それが「名古屋大学若手女性研究者サイエンスフォーラム・総長賞」といって、31枚のポスターの中から特に優秀なものに対して賞が贈られるという企画になっています。その賞を決めるために、皆さんに投票権がありまして、その票の獲得数が一番多かった数名の人に賞が与えられるというルールになっています。

ですから、自分が見たり聞いたり質問したりしたポスターの中で、総長賞にふさわしいと思うポスターを一つ選んで投票してください。受付でお渡しした資料の中に投票用紙が入っていると思います。当初の予定では三つということになっていましたが、集計の時間が限られていますので、皆さんは一つだけポスターを選んで、そのポスター番号を「×」の打っていない四角の中に記入してください。

迷ったときには、ポスターが見やすかったとか、説明を受けたときにその説明が分かりやすかったとか、すごく印象に残ったとか、研究の内容が面白かったなどの基準で、自分で決めていただければそれでいいですので、自分が一番いいと思ったポスターの番号を書いてください。友達と相談しないで自分の考えで決めて書いてください。

記入した投票用紙は、投票箱が会場に設置してありますので、その投票箱に投票してください。

投票とは別に、最初のあいさつのところでも出てきましたし、皆さんのお手元の資料にもパンフレットがあると思いますが、研究の内容ではなく、「学生生活はどうですか」とか「実験は3年生から忙しくなりますか」とか「女子が少なく大変なことはありますか」など、何でも先輩に気軽に質問できるコーナーもあります。

そのコーナーで説明をしてくれるのが、「あかりんご隊」といって、名古屋大学の理系の女子学生グループのメンバーです。あかりんご隊のメンバーが皆さんの質問や相談に気軽に答えてくれますので、会場で何か質問をしたり、相談してみたいことがある方は気軽にお越しください。この会場を出た左側の一番奥のところで行っています。近くにお菓子もありますので、それを食べながら気軽に相談していただければいいと思います。同時に、あかりんご隊の活動内容を写真で紹介していますので、それも併せてご覧ください。

では、時間ですので、実際にポスター会場へ行って、ポスター発表を聞いてみてください。

投票ですが、15時45分までによりしくお願いいたします。16時まで集計しないといけませんので、これより

早ければいつでもいいですが、最後の締切りの時間が15時45分になっていますので、それまでに投票をお願いいたします。

投票のあと、結果発表と表彰式が16時からありますので、16時までここへお戻りください。

以上です。

(終了)

〈授賞式／閉会式〉

司会（東村博子 男女共同参画室長／生命農学研究科准教授）：

皆さまこんにちは。改めまして、私は名古屋大学男女共同参画室長を務めております、東村博子と申します。

女子中高生の皆さんで残ってくださっている方々、1時から長い間お疲れ様でした。保護者の皆様もお楽しみいただけましたでしょうか。それから、後半の第2部のポスターセッションの部では、若手の女性研究者の方々が、自分たちの研究内容を女子中高生の皆さんに、あるいはほかの分野の方々にも分かるように説明して下さいました。苦勞しながらでも、生き生きと楽しく説明して下さっている姿が大変印象的でした。

そして、今日これからごあいさつをしていただきます。濱口総長を初め、理科系研究科の研究科長の先生方、審査員をお引き受けいただきまして、ありがとうございます。

それでは、これから本年の、若手女性研究者サイエンスフォーラム、総長賞の授与式を始めたいと思います。まずはそれに先立ちまして、濱口総長よりごあいさつの言葉をいただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

濱口道成 名古屋大学総長：

皆さんこんにちは。名古屋大学総長の濱口でございます。

今日の、若手女性研究者サイエンスフォーラムと女子中高生理系進学推進セミナーは、名古屋大学が全国の大学の中でも最も長年、戦略的に女性研究者の支援をしてみられました。たくさんの女性が、いろんな研究分野で活躍していることを、今日見ていただけたと思います。共通していることは、明るくてみんな元気、これが大事ですね。

日本は、最近暗いニュースが多くてどうなるんだろうと心配しています。確かに日本は、明治の時代、戦後まもなくに次いで3番目の転換点に入っています。なぜそうやってきたかという、理由は一つしかありません。日本の人口が減り始めているからです。これは、日本の

歴史が始まって以来の現象です。今、日本の人口は、1億3000万人位いますが、2050年には9000万人を切ってきます。一番問題な労働人口は、今の予測でいくと現状の55%位です。二人分の仕事を一人でやらないと、同じ経済が出来ない状態です。日本が元気になるためには、どうするかといったら、女性が頑張らなければいけない。君達が働いて日本の未来を支えて日本の希望をつくるということを、真剣に本気に明るく元気にやっていたりすることから、日本の次の10年20年が見えてくると思います。だから名古屋大学は、女性を支持します。ですから皆さんは、名古屋大学へ入って下さい。今日のサイエンスフォーラムで、ほんとうに沢山のお話を聞いていただいたと思います。残念ながら私は、他のミーティングがあって聞くことができませんでしたが、きっと明るくて元気な話が続いたと思っています。キーポイントは、よく聞いているとあまり悩んでいないんじゃないか。悩むとだめなんです。人間は小さくなります。おおらかに大きく目標をしっかり定めて進めていくと何となくそうなるんです。周りの環境が出来上がってきます。ただ、自分は研究者になれるだろうか、あるいは理系の分野に進めるだろうか、そういう後ろ向きなことばかり考えないで、自分はこれが好きなんだ。これをやりたい。やるためにどうしたらいいのかということに悩まないこと。できるだろうかではなくて、やるためにどうしたらいいのかということ、毎日考えていると、周りがそれにちゃんと合わせて環境が出来上がってくる。大丈夫です。君達は、大事にされますから。

今からポスターセッションの総長表彰式を行います。私も投票しましたが、たいへん苦しかったです。3人だけ選ぶなんて無理です。全員に差し上げたいのですが、今日は、代表の方に贈りたいと思います。

選ばれなかった人も来年頑張ってください。ポスターセッションを今日聞いて、すごく可能性を感じるものがあったりしました。大事なことは続けることです。続けるということに対して、たぶん大丈夫。みんな楽しんでやっておられるし、おもしろいと感じておられる。たぶん来年、もっとすばらしい結果を持ってこの会議に来ていただくと期待しています。

司会（束村）：

濱口先生ありがとうございました。名古屋大学の女性研究者がなぜ元気かというのは、濱口総長を見ていると分かるような気がします。本当にありがとうございました。

それでは今から、授与式に移りたいと思いますので、少しお待ちください。

それではお待ちいたしました。濱口総長が、ただ今「すべての方に総長賞をお渡ししたい」と言われました

が、それもできません。厳正なる投票によります結果、上位3名の方を順位なしで発表させていただきたいと思っておりますので、呼ばれた方は壇上のほうにお上がりください。

ポスター番号10番、「脳腫瘍を可視化するナノ材料の開発」、工学研究科の中尾早織さんどうぞ。

続きまして、ポスター番号11番、「昆虫の食べ跡には意義がある、迷路のような食べ跡は天敵への防衛戦略」生命農学研究科の綾部滋子さん、どうぞ前へお進みください。

もう1名発表します。ポスター番号28番、「種がたくさんつくイネ作りへの挑戦」、生物機能開発利用研究センター、池田真由子さん、どうぞ前へお進みください。

それでは、3名の方に総長から総長賞の授与をお願いいたします。

濱口総長：

名古屋大学若手女性研究者、サイエンスフォーラム総長賞「脳腫瘍を可視化するナノ材料の開発」。中尾早織殿、おめでとうございます。

名古屋大学若手女性研究者、サイエンスフォーラム総長賞、「昆虫の食べ跡には意義がある」これは面白い題名だと思って見ていました。「迷路のような食べ跡は天敵への防衛戦略」、綾部滋子さん、いい名前です。

名古屋大学若手女性研究者サイエンスフォーラム総長賞、「種がたくさんつくイネ作りへの挑戦」、池田真由子殿、おめでとうございます。

司会（束村）：

もう一度、盛大な拍手をお願いします。ありがとうございました。今から記念撮影をしたいと思っておりますので、ここへ少しお残りください。

今日は、総長を始め、初めにごあいさつさせていただいた藤井良一理事、そして研究科長、副研究科長の先生方にもお越しいただいておりますので、皆さんで写真撮影をしたいと思っております。そして、今日残念ながら総長賞は逃がした皆さんも、ぜひ壇のほうにお越しく下さい。少し狭いですが、写真を撮りたいと思っております。

皆さんが移動していらっしゃる間に、お名前をご紹介させていただきたいと思っております。理学部研究科長代理の尾張先生、工学研究科長の鈴置先生、生命農学研究科長代理で副研究科長の柘植先生、そして多元数理科学研究科長の木村先生、情報科学研究科長大西先生、環境学研究科長の山口先生、環境医学研究所教授で所長代理の益谷先生、理学研究科の尾張部先生、今日ご講演をいただいた東京大学の太田先生をはじめ、男女共同参画推進専門委員の先生方にも今日は審査員として加わっていただきました。ありがとうございました。

今日ここにお越しの理系の研究科長の先生方が、女性

研究者の支援を支持しているということが非常によく分かるワンショットになると思います。

(写真撮影)

どうもありがとうございました。こういうざっくばらんな感じで閉会を迎えますが、来年もまた、同様の企画を開催したいと思います。

藤井理事：

ぜひ盛大に開催しましょう。若手研究者の方も、どうもありがとうございました。

司会（束村）：

もう一度、盛大な拍手でお送りください。気をつけてお帰りください。

それではまたお目にかかります。どうもありがとうございました。

(終了)